

事業コード	H18-建-継-8		区 分	国庫補助	県単独
事業名	国道道路改築費		部局課室名	建設交通部 道路課	
事業種別	2次改築		班 名	高速道路国道班 (tel) 018-860-2488	
路線名等	国道101号		担当課長名	檜森 悦朗	
箇所名	能代市通町(能代拡幅)		担当者名	伊藤 茂	
総合計画との関連	政策コード	U	政策名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備	
	施策コード	03	施策名	地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備	
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県管理国道改良率	

1. 事業の概要

事業期間	H16 ~ H23 (8年)		総事業費	35.0億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	延長 L = 840m、幅員 W = 13.0(22.0)m						
事業の立案に至る背景	<p>一般国道101号は青森市を起点とし、日本海沿岸を南下し、能代市、男鹿市を経て秋田市に至る幹線道路である。また、沿線には津軽、男鹿両国定公園や世界遺産に登録された白神山を擁することから観光道路としての機能も有している路線である。</p> <p>計画区間は国道7号から能代市の中心地に連絡する道路であるが、現況は2車線で歩道も狭く、H17センサスにおいて15,718台/日、混雑度1.21、旅行速度20.8km/h区間事故率358件/億キロと慢性的な交通渋滞の発生と事故多発の区間である。このため平成14年4月には4車線の道路として都市計画決定され早期の整備が望まれていた</p>						
事業目的	<p>交通渋滞を緩和 歩道整備による歩行者、自転車の安全確保 危機管理の充実(第1次緊急輸送路)</p>						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	3,500,000	3,500,000	0			
	経費内訳	工事費	562,000	562,000	0		
		用補費	2,561,000	2,561,000	0		
		その他	377,000	377,000	0		
	財源内訳	国庫補助	1,750,000	1,750,000	0		
		県債	0	0	0		
その他		0	0	0			
一般財源	1,750,000	1,750,000	0				
事業内容	調査・設計 改良工 舗装工	調査・設計 改良工 舗装工					
事業の進捗状況	調査、設計業務は完了。現在、用地買収(進捗率: H17年度末6%、H18年度末25%予定)に着手している。						
事業推進上の課題	特になし						
関連する計画等	日本海沿岸東北自動車道(琴丘能代道路: 能代南IC~能代東IC間H18年7月29日開通)あきた21総合計画における施策「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」を支援する事業(県管理国道の整備促進)。						
情勢の変化及び長期継続の理由	情勢の変化: H18.3.21 能代市、二ツ井町と合併する。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	旅行速度の向上					
	指標式	旅行速度km/h					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	35 km/h		データ等の出典	平成17年度道路交通センサス		
	実績値 b	33.3 km/h					
達成率 b/a	95.1 %		把握の時期	平成18年7月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	H17センサスにおいて15,718台/日、混雑度1.21、旅行速度20.8km/h、区間事故率358件/億台kmと慢性的な交通渋滞が発生している。	10点
緊 急 性	本路線は県の主要プロジェクトである「地域間交流・連携を支える交通ネットワークの整備」に位置づけあり。 市町村合併支援道路の位置づけあり。 当工事と合わせて歩道の無散水施設を設置する。	15点
有 効 性	第1次緊急輸送路指定路線であり、災害や救急医療施設へのアクセス道路としての活用が見込まれる。 4車線の都市計画決定されている。(平成14年3月) H14.8.6 能代市を中心とする関係市町村長および関係団体で構成される国道101号整備促進期成同盟会より要望を受けている。	30点
効 率 性	事業の費用便益はB/Cは5.49である。 計画交通量は21,778台/日である。 コスト縮減に寄与する二次製品を多用する。 現道拡幅(2車から4車)工事である。	18点
熟 度	平成18年度末の事業進捗率は16.3%である。 平成18年度末の用地進捗率は24.7%である。	10点
判 定	ランク () ・H16年新規箇所であり「熟度」は低い計画通り進捗している。「緊急性」、「有効性」、「効率性」が高いことから引き続き実施すべき事業である。	83点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 ・事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H18-建-継-8)

適用基準名 道路改築事業(地域間交流・連携促進)《2次改築事業》

箇所名 (能代市通町(能代拡幅))

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	8	0	
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	5		
	・最小半径 < 100m	1箇所	3		
	・最急勾配 > 5%	0箇所	0		
	・冬期堆雪巾なし	2次改築事業のため評価なし	0		
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	15	10	
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	12		
	・現道の旅行速度 30kn/h	3件該当	10		
	・現道の事故率 50件	2件該当	8		
・通学路指定で歩道なし	1件該当	4			
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計			15	10	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無			5	
	・県の主要プロジェクト	あり	5		
	・地域振興プロジェクト				
	・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	5	5	
	位置づけなし	0			
特有の課題の有無	あり	5	5		
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0			
計			15	15	
有効性	道路の位置づけ				
	緊急輸送路			10	
	第1次輸送路	第1次輸送路	10		
	第2次輸送路	第2次輸送路	8		
	第3次輸送路	第3次輸送路	6		
		指定なし	0		
	県内90分交通体系、全国1日交通圏等に関連	あり	10	10	
	なし	0			
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	10	10		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計			30	30	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)			5	
	1.5以上	5			
	1.0以上~1.5未満	3			
		1.0未満	0		
	計画交通量			5	
	5,000台/日以上	5			
	1,000台/日以上~5,000台/日未満	3			
	1,000台/日未満	0			
コスト縮減			5		
あり	5				
	なし	0			
事業中止の影響			3	e t c 大規模バイパス e t c 部分的ミニバイパ e t c 現道拡幅	
既投資額の損失大	5				
既投資額の部分的損失	4				
	既投資額の損失が少ない	3	3		
計			20	18	
熟度	事業の進捗状況				
	事業の進捗(事業費)			5	
	8割以上完了	10			
	5割以上完了	8			
	1割以上完了	5			
		1割未満	2		
	用地買収の進捗(面積)			5	
8割以上完了	10				
5割以上完了	8				
1割以上完了	5				
	1割未満	2			
	未着手	0			
計			20	10	
合計			100	83	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度が高い	80点以上		
	優先度が低い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		